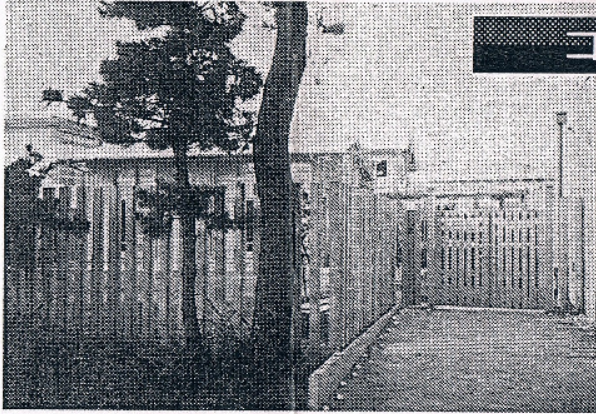


コンクリートの柱の列



植木さんが設計した茨城
県神栖町の医師中島章さん
の住宅は、敷地内に医院と
ある住宅と庭をはさんで接
している南側の道路との仕
切りは、高さ百八十センチ、
断面積十センチ四方のコンク
リート柱が十センチ間隔で並ん

並ぶ閉鎖
柱方のない
中島さんが少
な感じが
コンクリート
的な

塀の代わりに設置

風が通り垣根の効果

建築家の植木さん

塀やフェンスの役割と言えば、外からの目隠しや防犯対策。しかし、あまり大きすぎた丈な素材のイメージとあって、内外の気配を感じられる垣根のような効果が出てくる。

である。本数はおよそ百十本。本四干ほど。強風などで倒れないよう、六十センチ埋め込んである。

「町の人たちに親しみを

持たれるような、威張った

感じのない建物」という

のが中島さんの注文だっ

た。だが、同じ敷地に並ん

でいる住宅が重々しい印象

では、中島さんの希望する

医院全体のイメージが

崩れてしまふ。そこで

植木さんが提案したのが

コンクリート柱による

仕切りだ。

「道路の南側が水田

で、夏は涼しい風が家に

吹き込んでくる。そこ

に塀を作ると風通し

が悪くなるのもつた

くない。といって、金

網フェンスのよつなも

のでは防犯に不安が残

る」と考えた末のアイ

デア。十センチ間隔なら

き間から人が入ること

はできないので、防犯

面では同じ高さのコンク

リートの塀で囲んであるのも

同然だ。

中島さん宅で使われたコ

ンクリート柱は、万代塀用

の支柱をそのまま用いた。

万代塀とは、コンクリート

製の支柱の間に横長のコン

クリート板を敷き重ねたもので、工場を囲む塀によく見られる。市販品なので、

● 松の緑に映えて、威圧感もなし ●

また、コンクリート柱と道路の間には松が並木のようにはえており、松の緑がコンクリートの無骨な色をカバーしている。実は、松のはえている部分も中島さん方の敷地。あえて仕切りの外側に松を出すことで公共性を持たせ、道行く人の圧迫感をなくそうと配慮している。

中島さんは、「当初は完全に目隠しになる方がいいと思ってたが、できてみると威圧感がなく暗い感じがしない」と話す。「塀や生け垣など、周囲との仕切り部分もあればいいというのではなく、建物とデザインを調和させる発想が必要」というのが植木さんの考えだ。